

1. Withコロナを見据えた医療人材の確保について

Q 新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、現場の第一線で対応いただく医療人材の確保、特に看護師の確保について急務です。即戦力として対応頂ける「潜在看護師」に対する人材確保策を強化してはいかがでしょうか。

A 県の看護協会と連携して、看護師の人材確保、離職防止、再就職支援のための総合的な施策を展開しております。市としても施策の充実を県に要望するとともに、市立看護大学において看護人材の育成を推進してきています。引き続き、優秀な看護人材の供給・促進、市内定着に力を入れていきたい。

要望 看護師をはじめ医療現場は「人」が直接関わらなければならない大切な職域です。医療人材を育てていくため市としての支援を要望しておきます。

2. Withコロナを見据えた公教育におけるICT教育のあり方について

Q 新年度当初には小・中学校全ての児童生徒にタブレット端末が貸与されることになりました。この端末の活用について、授業モデル等の目指すべき方向性はどのようなものか伺います。

A 動画や写真画像などのコンテンツを使って、視覚的な理解を促すことができ、そしてグループ学習においてより効果が発揮できると考えています。授業の形態が大きく変わること、児童・生徒の興味や関心また意欲の向上を図り、課題への深い理解につながっていくものと考えています。

要望 端末への慣れの問題もあり、それぞれの理解度・習熟度に応じて、丁寧に進めていただきたい。教員と子どもたちが一緒に考えながら学びを深めていくことが大切であり、教育委員会として各校に対して的確な支援・助言に努めていただきたい。

3. Withコロナを見据えた神戸のまちづくりのあり方について

Q 地域コミュニティ交通の運行支援策として、市内4地域で本格運行支援、8地域で需要調査や試験運行による検証が行われます。まちづくりにおける都市交通の位置づけや地域公共交通のあり方について伺います。

A 基本は、鉄道網を基幹交通網とし、鉄道の駅と地域を結ぶバス路線をフィーダー網とする。そしてバス路線で採算が取れないところは地域コミュニティ交通で補完する。これが基本的な考え方です。

要望 公共交通事業はライフラインと同等に重要な施策です。特に地域コミュニティ交通の本格運行の可否を判断する際は、利用人数や収支といった経済原理だけではなく、まちづくりに必要な都市の装置だといった観点で判断していただきたい。



1. コロナ禍における市民への食の対策について [健康局] 3月3日

Q コロナ禍において食生活にどのような影響があるのかについて、アンケート調査が1月に実施されました。その結果を受けて、ひとり親世帯に対しどのような施策を考えているのか伺います。

A アンケート結果では、ひとり親家庭での食生活の悪化が顕著に見られました。支援団体とも連携し、簡単で時短のレシピや安く栄養バランスが良いものなどのレシピ動画を作成して発信するとともに、さらなる改善の方策について検討していきたい。

要望 子どもたちにとって「食育」を通じて知育・徳育・体育という健康の基礎作りに繋げていくことが重要で、子どもたちや若い世代が家庭環境に関わらず「食」を中心とする健全な生活を送れるようしっかり対応していただきたい。

2. 保健師の負担軽減について [健康局] 3月3日

Q 保健師として、コロナ対策以外にも近年増加しているひきこもりや児童虐待、高齢者への虐待など対応が困難な事例が増え、業務が増大・多様化しています。新年度、保健師を増員し体制強化する一方で、個々の保健師の負担軽減を図ることは喫緊の課題と考えています。業務のICT化など、専門性が

発揮しやすい環境づくりを進めていくべきと考えますが見解を伺います。

A ICTの活用等進めており、今般の新型コロナウイルス対策について、スマートフォンで健康状態を確認するシステムを導入して対応しています。今後はタブレット端末を保健師全員に持たせるなどさらに効率よく仕事ができるように進めていきたい。

要望 新年度当初に採用される保健師には新卒者の方も多く含まれると伺っています。現場はギリギリの人員体制ですが、社会経験が少ない若い保健師のためにOJTを含む育成や研修に十分な時間・期間をかけていただきたい。

1. 障害者の就労支援について [福祉局] 3月4日

Q 市内で5か所の「しごとサポート」を設置し、就労相談や職場開拓、定着支援に取り組んでいただいています。制度を利用して就労につながった事例やどのような職種へ就労しているのか伺います。

A 昨年度の相談延べ件数は1万6210件、支援実績は就職者数が271人。事務職、清掃軽作業店舗業務、厨房倉庫内作業などに就労されています。今後も働く意欲のある障害者がその希望や特性に応じて働き続けることができるよう支援体制を強化していきたい。

要望 いかに具体的に就職につながったか、いかに長く勤めることができているかが大切です。障害者の生活が安定し、豊かな生活を送ることができるよう市として積極的に支援していただきたい。

2. ICTを活用した生活困窮世帯へのリモート学習支援について [福祉局] 3月4日

Q 経済的な事情による学力格差が懸念される中学生への支援として、リモート学習支援「リモスタ」事業を拡充して実施していただく予定です。学校とも連携しアウトリーチ的に情報発信していただきたい。加えて従前から実施している対面式の学習支援

にも参加を促して支援の充実を図ってほしいと考えますがいかがでしょうか。

A 「リモスタ」事業については丁寧な周知をさせて頂き、参加者は200名を超え、出席率も96%となっています。対面式の学習支援事業も市内12か所で実施しており、リモート学習とともに支援を拡充していきたい。

要望 コロナ禍の影響を受けてその学力格差が広がっていき懸念されています。子どもたちには家庭環境に関わりなく学習機会の平等がしっかりと担保されることが大切です。関係部局としっかり連携して取り組んでいただきたい。

質疑の内容は抜粋です。神戸市会のホームページで録画中継や議事録を見ることができます。

